

●グループ発表・まとめ

各グループからテーブルトークの内容の発表があり、最後に講師の延藤氏が以下のようにまとめました。



○今後に向けてのキーワード

- な** 南北に抜ける道。囲まれた空間配置を活かし、東西どちらに顔を作るか？
- い** 以前の暮らし方営み方が「生で」or「バーチャル」で体験できる仕掛けを！
—子ども達の学びの場（次世代への地域価値のつなぎ）
- た** 食べ物と陶器の体験ができる！瀬戸メシ！瀬戸の作家（陶器・家具）
—開放的な空間を活かす！！
- し** 四季折々のイベント、銀座通り商店街、陶の路等の繋がりで、日常・非日常の
まちの元気を育てる循環の拠点として。
- に** 二階の階高低い新小屋は畳敷き。一階は居場所等、空間特性を！
- しよ** 瀟洒な美しさに富む離れは迎賓館・アーティストインレジデンス・茶室に！
—トイレの美しさを活かそう
- ば** 場の力を発揮させるため、奥倉庫はフレキシブルに！
—コンサート・大パーティ・修学旅行の子どもたち…
- い** 色々な主体（行政・市民・NPO・コミュニティビジネス等）の役割分担と実践研究
- な** ナイトライトが美しい！24時間営業！スタッフ・アプローチ・情報発信・マネジメント
- こん** 困難なトラブルをエネルギーに！未完成がいい！人が育つ！人が繋る未来へ繋ぐ創造の広場！



→ こんな居場所にしたいな

頭文字を下から読むと「こんな場所にしたいな」となりました。今年度のワークショップはこれで終わりですが、来年度も継続していきます！またご参加ください。

●アンケートから（抜粋）

1. 幻燈会で印象に残ったこと。
 - ・日本の事例が聞けて良かった。
 - ・具体例を見せていただき、image がわく。
 - ・別の発展をとげた活用の仕方が見られておもしろかった。
 - ・誰もが行ける場所—ボーダーレス
蔵 bar—大人の場づくり
樟木館の事例—市民が発展
 - ・高知県赤岡町の市民参加の町づくり
住んでいる人が気づかない宝物に触れ、大切にしていこう
と行動していく様子に心動かされました。
 - ・具体的に考えることの難しさを実感。
でもいろいろな意見でイメージがふくらみました。
 - ・大変わかりやすい報告でした。
 - ・身近な例でとてもわかりやすかった。
 - ・高知の住民参加。多世代参加がすばらしい。
2. テーブルトークや発表会、全体討議で気づいたこと。
 - ・前向きな意見の人が多く、発見しやすい雰囲気もあり非常に良かった。
 - ・いろんな意見が出てきて良かった。発表で人の意見・発表を聞くこと、理解することができてよいと思う。
 - ・皆さんの意見がぼつぼつとでてきて、それを聞けることは楽しい討論会でした。
 - ・意見は類似している。次はソフト面の充実だと思う。
 - ・同じような意見の中にも少しずつ違いがあって面白いと思いました。「創造のひろば」というキーワードに出会えてよかったです。
 - ・時間が少なすぎて充分話し合えないのが残念でした。
 - ・大変闊達のあるテーブルトークでした。
 - ・とても内容の濃い発表になったと思いました。

3. 進め方やないようについて気づいたこと。

- ・第1回のグループの人と再度一緒にグループにならないようにメンバーをシャッフルしたのは、多くの人と接することができて良かった。
- ・このワークショップが活性化するのは、全体を見渡すことができる延藤先生の力が大きい。今後の運営まで見通して市民をやる気にさせる magic をかける magician！
- ・伊藤市長も交えた会議を希望します。
- ・もっととどんどん広い世代が参加したら良いと思います。
- ・ぜひ次も延藤先生のお力添えをお願いしたいです。
- ・少し時間が全体的にタイトでした。

ちょっと紹介

旧山繁商店の西側の出入り口にある石垣に、扇形の石がはめ込まれています。職人さんの遊び心でしょうか。この扇形の石は、規則的に積み上げられた石垣に変化をもたらすアクセントとなっています。

扇は開いた時に先端、すなわち末の方が広がることから、今後の繁栄を意味して縁起よいとされています。旧山繁商店の保存活用も、扇のように末広がりにより発展させていきましょう。



この石垣は市道沿いにあるので、近くまで来た時はぜひ探してみてください。

きたしんがい通信 第2号

「^{きたしんがい}北新谷」とは、近代瀬戸町の瀬戸川以北のエリアの呼び名で、旧山繁商店の立地する周辺を指します。

平成29年3月12日(日)、瀬戸市文化センターにおいて「第2回旧山繁商店保存活用計画策定ワークショップ」を開催しました。今回も講師に旧山繁商店保存活用計画策定委員でもある延藤安弘氏をお招きし、古い建物の保存活用のヒントをいただきました。参加者は前回の内容を踏まえ、さらに踏み込んだ話し合いをしました。



●ワークショップの内容

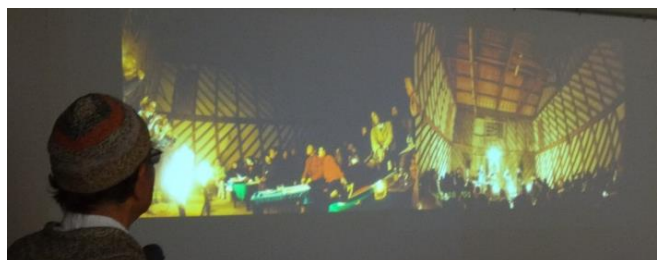
瀬戸市では現在、市街地にある国の登録有形文化財である「旧山繁商店」を保存し、活用していく計画を作っています。

第一回ワークショップでは参加者は旧山繁商店を見学し、その後見学した感想や今後の保存活用の方針について話し合いました。

今回のワークショップは前回とはグループのメンバーを変更し、4人ずつ3グループに分かれて自由に話し合った後、グループ発表をしました。

① 幻燈会～Magic Lantern Party～

講師の延藤氏に、前回のおさらいをしていただき、さらに、名古屋市の榑木館や高知県赤岡町で市民が主体となって行われた古い建物の保存活用計画について紹介していただきました。



② テーブルトーク

4人のグループで話し合いました。旧山繁商店の建物ごとの活用方法を具体的に話し合い、さらにそれらを誰が運営していくのか自由に話し合いました。

③ 発表

テーブルトークで話し合った内容を模造紙にまとめ、グループごとに発表し、共有しました。(内容はP2・3をご覧ください)

④ まとめ

テーブルトークや発表をもとに、延藤氏が今回のワークショップのまとめをしました。(内容はP4をご覧ください)

